

No.212

令和3年3月25日  
鹿児島県立甲南高等学校  
鹿児島市上之園町23番地1  
TEL (099) 254-0175  
題字 永野弘行(本校教諭)



教頭 松崎 浩 隆

「心遣い」

この一年、新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るつてきた。報道は連日この話題ばかりである。このウイルスに、どれほどの社会活動や教育活動が翻弄されてきたであろうか。ただ、未曾有の事態だからこそ、我々自身も考えさせられ、自身のあり方を問われることがあるのも事実である。

先日、あるアナウンサーの  
若かりし頃のエピソードを読  
んだ。自分に、高い視度を与  
え続けてくれた解説者が、つ  
いこの間他界された。ある  
時、放送中に何気なく使った  
言葉に、後で「あの言い方は  
ないだろ、もっと他の気の利  
いた言い方があるだろ、君の  
発した言葉で傷つく方がいる  
んだぞ」と指摘された。放送  
前は全く想像できていなかつ  
たアナウンサーは、この指摘  
がきっかけとなり、以後五十  
年間、言い回しには特に気を  
配り、「心遣い」を大切にし、  
て本番に臨むようにしてきた  
という。大変心に沁みた。  
日本では、古くから「心遣  
い」の文化を大切にしてきた。  
同じような意味の言葉に「気

さて、コロナ禍はＩＣＴの発達を加速度的に速めている。人工知能やデータサイエンスの技術を駆使し、より豊かな生活環境を構築しようと、今世界中の科学者が群々なビッグデータに注目している。無機質なデータに意味を持たせることにしのぎを削る時代である。しかし、ＴＰＯに合わせてきめ細かい心遣いができるのは、生身の人間だけである。東京オリンピックは、きめ細かな心遣いによるおもてなしの文化に再度スポットを

切な精神を世界中に発信した  
かったからこそ、あのプレゼン  
の場でこの言葉を使用した  
のである。いわゆる相手を  
「察する」能力は、島国日本  
が共存共榮型の社会や共同体  
の中、祖先から受け継ぎでき  
た遺伝子レベルの能力で、世  
界でも高い評価を得ている。  
今後も大切にしていきたい力  
である。

「学びにU.K.」第六期生  
三十二人は、イギリス修修を  
目指して、約一年かけて課題  
研究を進めてきました。

多くの頂きました。生徒からは、「一つの国のことを調べるうちに人権等、様々な問題があることを知つた」などの感想が聞かれました。

また、年間六回ある高大連携では、鹿児島大学の先生をお越しいただき、専門的な立場から、研究を進めて行く上での指針となる指導助言を頂きました。

一月の最終発表会では、

広島大学との連携  
今年度は「学びにUK」  
のうち三人が、広島大学ワ  
ルドワイドラーニングコ  
ソーシアム構築支援事業に  
いて英語による課題研究を  
いました。  
五回にわたり、プログラ  
ムは行われました。一回  
目から四回目は、生徒たち  
はオンラインで、五回目は  
実際に広島大学へ行き、発表  
を行いました。オンラインで  
で発表をしたり交流をした  
することは初めてで、意思共  
通を図ることの難しさを改  
て感じましたが、英語でな  
どこれまで研究したこと  
伝えることができました。

### エンパワーメントプログラム 刊年、「女性の生き方」

を堂々と行き、質疑応答にも立派に臨みました。

第一回探究コンテスト

今年度から始まつた鹿児島県高校教育課主催の探究コンテストでは、社会科学部門で、三人の生徒が受賞されました。

三人とも鹿児島県に関する身近な課題を解決しようと研究に励み、立派に発表を行いました。質疑応答では新たな視点からの助言を頂き、研究を深める機会となりました。この一年間、三十二人全員が、密度の濃い時間を過ごすとともに、課題研究を通して、情報収集力、論理的思考力、英語力、プレゼンテーション能力などを身につけることができました。

学びに UK 成果報生



画は、国内大学の留学生を招聘し、プレゼンやディスカッション等を通してグローバルスキルを身につけることを目的としています。この研修を通してまた大きく成長することを期待しています。